

早稻田應用化學會報
第13卷第4冊第29號別冊

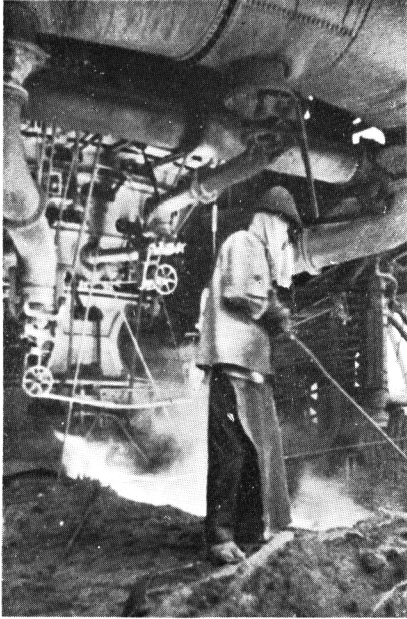
目 次

- (1) 新 築 教 室
- (2) 教 室 消 息
- (3) 夏 期 見 學 旅 行 記
- (4) 會 員 消 息
- (5) 九 應 會 員 消 息
- (6) 群 青 會 (第5回)
- (7) ル ッ ボ 會 (第9回)
- (8) 九 四 會 々 員 抄
- (9) 一 一 會 初 だ よ り
- (10) 二 年 よ り
- (11) 昭 和 十 一 年 の 一 年 の こ と
- (12) 一 年 雜 聞 記

夏期見物旅行アルバムより

其の1 北海道班

熔鑛爐 (輪西日本製鐵)



見學を終つて一休み

(王子製紙釧路工場前廣場)



阿寒湖舟遊



遠淺チーズ工場にて



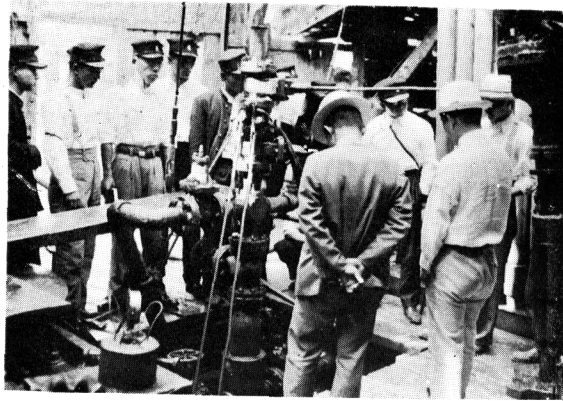
飽かぬ眺め (摩周湖畔にて)



見學旅行解散式の夜 (登別温泉にて)

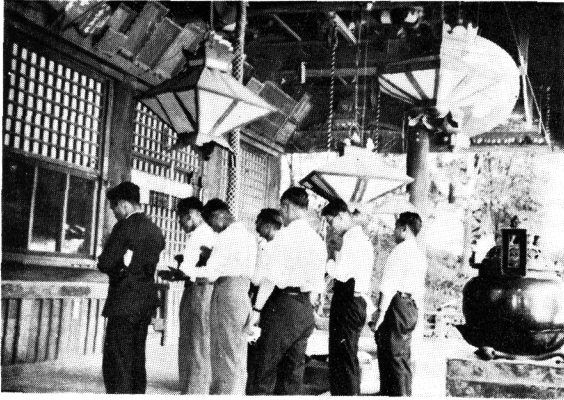


油井掘りの説明をきく（日石大面油田）



關西、九州班
其の二

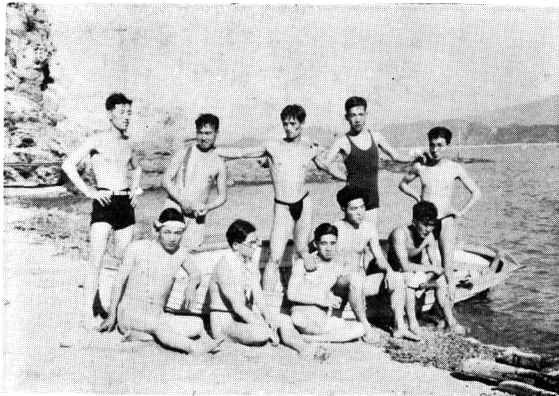
信仰心の厚い九州連中
—— 紀三井寺にて ——



先輩を囲んで
—— 伏木北海道曹達にて ——



嵐の前の静けさ（新和歌浦海岸にて）
これからがすごかつたです



此處も見學の一つ
—— 大阪道頓堀 ——



(1) 新築教室

新實驗室は從來の舊實驗室に比して面積は約3倍に増大し地下1階地上4階の堂々たる建物である内部は特に學生指導に重點を置いてゐるため、學生用各種實驗室圖書室列品室等が可成り廣い面積をとつてゐるが、各特殊實驗室には應用化學科が他に誇る最新式の設備が施されてゐるのである。

先づ第一に挙げられる特殊實驗室は地階の低温實驗室だ。この實驗室は應用化學科許りでなく機械、電氣科等にも必要なもので、その利用範圍は頗る廣範に亘つてゐるとの事である。室内には氷點下廿五度近くまで任意の2種の一定温度で長期間使用出来る大冷蔵庫が設置されるが、これが何かしら心強い感じを醸しだしてゐる。また瓦斯揮發物等の引火性の物質を取扱ふために設けられた耐火室、揮發物實驗室なども特色あるものゝ一つである。

一通り説明することにして先づ地階に降ると化學工業用機械や大型強度試験器等を備へてゐる。化學工業實驗室、セメント養生室、更に元素ガス分析室X線室等が目止まる。1階は藥品器具室、天秤室、1年用實驗室、分析及び無機化學研究室、セメント及び窯業の2研究室に充てられてゐる。

2階に上ると應用化學科が世界一を誇る酸性白土研究室がある。その他2年用實驗室、物理化學實驗室、天秤室、恒温槽室、顯微鏡寫眞室、暗室、或は石鹼樹脂塗料等の油脂化學研究室、寫眞等に必要な光化學研究室、並に染料化學研究室が設けられてゐる。3階は、3年用實驗室、揮發物質實驗室及び砂糖澱粉研究室、酸酵といふ文字から受ける感じとは凡そ異つた清潔な酸酵研究室、時代の寵兒人造絹糸ステープル・ファイバー即ち人造羊毛セルロイド製糸等を研究對照とする纖維素研究室、精密測定用の物理化學研究室、電氣化學研究室の5研究室が置かれてゐる。

以上の各階の完備した研究室から本邦化學工業界を啓發する研究が發表され斯界のため益々貢獻される事を期待し止まない。

(2) 教室消息

小林先生以下諸先生並に職員諸氏には教務多端新教室への引越其他の雜務多忙の折にも關らず益々健康元氣旺盛であられます。只山ノ内先生は最近腎臟の方を少し害されて臥床して居られたが、最近は舊に復され2、3日前より學業に御見えになつた様です。

小林先生は色々の事務に忙殺され居るゝにも關らず山本先生と同様酸性白土の研究は仲々盛んである。又先程評論社出版の「石油工業」を發刊され、我國が過去數十年間石油資源に惱され乍ら進んで來た經路、現状並に石油業法に關し詳細達識な蘊蓄を傾倒され將來日本が進むべき燃料政策に關し、御高見を披瀝された。其他石油時報燃料協會等にも執筆されて居る。小栗先生は工業化學會の副會長の事務多忙にも關らず纖維素に關する研究も益々盛んで、工業化會誌等に屢々其報告が見受けられる。富井先生も元氣旺んで研究に従事されて居るが、最近蓄電池の研究で文部省の自然科學研究補助費を交附された。武富先生はインゲルターゼの研究に關し研究され工業化學會誌等に報告されて居る。山口先生も油脂塗料方面に關する研究を元氣でやつて居られる。山本先生の酸性白土の物理化學的研究は斯界の先驅であるが、之に附隨した活性白土の研究及石油に關する研究も發長されて居る。又最近工業化學會主記の事務多忙の折も益々研究に油がのつて最近日本學術協會の名譽ある日本學術協會賞を得られた。又宇野先生はアルミナの製造研究に關し隔日なき努力をされて居り、秋山先生は先程アルミナセメントの製造研究に關し旭化學獎勵會より研究費を受けられた。元氣盛んで研究成果を發表されて居る。猶今夏の卒業生見學旅行は北海道班は武富先生、關西班は宇野先生に夫々引率されて行つたが何れも無事七月末日豫定の見學を終了した。

待望の新應用化學科教室も難無く去る8月下旬竣成して9月1日より引越を始め約2週間にして完全に新教室に引移る事が出来、第2學期の授業も平年通り同11日より新教室に於て始業する事の出来た事は御同慶の至りで、學校當局は勿論營業課各位及應用化學科諸先生並に職員諸氏の眞摯なる努力と卒業生諸氏の熱心なる後援とによつて落成の域に漕ぎ着けたのであります。申す迄もなく新教室竣成は吾應用化學科の外容的完成であります。同時に其内容の點に於ても着々完成の域に達せんとして居る次第でありまして、此新築落成を一劃期として益々其發展に拍車をかくる様教室、先輩諸氏並に學生諸氏の一致團結を望んで止まざる次第であります。

應用化學科新教室を先頃田中總長金子常務理事を始めとして維持員の方々の來訪を受け、又先頃理工學部他科諸先生を招待して新築披露を行つた。猶は來る11月1日には關係會社、會員、學生父兄を招待披露する豫定。

山本研一氏日本學術協會賞を受賞す

山本先生は今回日本學術協會より多年研鑽を積まれ、學界に多大の貢獻をされた酸性白土屬粘土の理論化學的研究に對し本年度第3部（化學、藥學）日本學術協會賞を受けられた。洵に御同慶の至りである。猶ほ10月18日岡山市に於ける日本學術協會大會に出席「活性白土に關する研究」に就て、同24日に河喜多博士功績記念講演會には「酸性白土と活性白土」に就て講演され、吾が應用化學科のため活躍されてゐる。

(3) 夏期工場見學旅行記

(昭和11年夏・北海道班)

今年の夏期工場見學旅行は昨年の通り、北海道と九州との2班に分れ、吾北海道班は、武富教授御引率の下に下記18名の多數の參加を得て、野外教練の關係で少しく遅れて7月14日賑かに出發した。

今村、石津、池田、徳本、大久保、小倉、片桐、棚橋、野崎、乗松、日下部、久喜、山田、保田、的場、小松、宮田、平池、

以下此所に其の経過を報告す。

7月14日(火) 一第1日 晴

午前9時30分上野驛集合。武富先生は御先發、既に北海道に在り。徳本君は用事にて遅れ一行17名集合。西片君、大西君の見送りを受けて10時、賑かにスタートは切らる。C5539の流線型列車は元氣な一行を乗せて武蔵野を横ぎり、一路青森に向つて北へ北へと進む。

揺れる事13時間半、午後11時半、寢る暇もなく青森着。

7月15日(水) 一第2日 晴

夜12時連絡船に乗船、午前0時半出發。夜間の爲津輕海峡の展望は全くきかないが、連絡船の「ごこね」の經驗も又嬉しいものです。やつとうとうとまどろんだと思ふと、午前5時、朝靄に包まれた函館港に着。北海道の力強き一步をふみ出す。

直ちに北海道本線に乗り換へ、午前6時函館發の急行にて小樽に向ふ、初めて見る北海道の風景は疲れた體を仲々寝させてくれない。

北海水力電氣株式會社の安達祐四郎、五百藏柳次氏の御出迎を受け午前1時半小樽着、加賀屋旅館に御案内される。小樽の街は丁度祭で工場が休んで居る爲見學出來ず、晝飯後モーターボートで小樽港を一周し、古代文字を見、北海製糖等の主なる工場の

外觀だけを見る。「かなしきは小樽の町よ歌ふことなき人々の聲の荒さよ」と數十年前啄木の歌つた感傷の町小樽も今は近代的工業都市になりきつて居る。

久し振りに風呂に入り汽車の煤煙を落して、疲れた體を休める。此所で徳本君來り一行18名が揃ふ。

7月16日(木) 一第3日 小雨後晴

2日間の汽車の疲れを一夜の睡眠に回復して5時半起床。小樽の街は小雨にけむつて居る。

午前7時小樽驛發一路釧路に向ふ。雨は何時の間にか止んで居る。札幌、岩見澤、瀧川、下富良野と列車は北海道の中央を横ぎつて午後3時頃清水驛にて武富先生が御乗車して一行全く揃ふ。先發して御見學なされた帯廣の甜菜糖工場、農事試験所、極東煉乳及び清水の明治製糖のお話を武富先生より承る。

甜菜糖工場は夏期操業して居ないのと、日程の都合との爲に我々は甜菜糖工場を一つも見學しなかつたが、北海道製糖の帯廣及び標茶の工場、明治製糖の清水及び士別(計畫中)工場の中一つは見學される様來年の方にお奨めする。

有名な狩勝峠の展望を恣にして、大雨の残りをうけた、名物の霧深き釧路驛に午後7時40分着。内海氏及び市田氏の御出迎へを受けて、兩氏の御案内によりバスにて王子製紙釧路工場に向ふ。霧の深い事と、自動車のひどくゆれた事が強く印象に残る。社宅を二つ都合して戴き9人づつ分れて宿泊。王子製紙自慢の風呂を浴びて後、同クラブにて我々の歓迎會を催して下さる。小栗先生の御親戚の浅田氏も御出席され心盡しのスキ焼と先輩の元氣なお話しに一同心持良くよつて11時半就寢。

7月17日(金) 一第4日 快晴

5時半起床。7時クラブにて朝食、内海氏の阿寒回遊コースの親切なる御導あり。直ちに約1時間半に渡つて工場を見學す。

同社1ヶ年の生産高は新聞用紙3,500萬封度、ロール半紙類1,500萬封度、包裝紙類800萬封度で其の外100萬封度のサルファイトパルプを製造して居る。Pulp工場の見學は最初なの(非常に有益であつた亜硫酸石灰塔のSO₂の臭氣には一同辟易す。

見學終つて9時、阿寒回遊バス一臺を買切つて乗車、釧路市内を見聞す。見晴し臺にて霧笛警報を聞き乍ら釧路港を見渡し、一旦クラブに歸つて午前10時40分、内海、市田、浅田氏等の見送りを受け、一同感謝をこめて出發す。大業毛(オタノシケと讀むのですぞ)の放牧場を通り、名も知れぬ草花の繁つ

平原をバスは走る。12時20分第4發電所着。同所を見學し同40分再び出發。此邊より山が急となり大雨の後で橋が破壊されて居て通行が極めて困難であつた。午後1時10分阿寒湖着。直ちにモーターボートに乗船し持參の晝飯にやつと一同元氣づく。雄阿寒、雌阿寒の兩岳に圍まれて雄大な阿寒湖を一周す名物の稗藻々見る。2時40分瀧口にて下船し、釣りに興ず。再びバスにて3時半雄阿寒ホテル着。早稲田大學生一行御宿泊所の立札あり。到着後夕立來る天候にめぐまれて居るのを祝し合ふ。夕立後宿の後ろを洗れる河畔を散歩す。釣橋あり、白樺は繁り静かな温泉宿。唯、蚊と蛇の多いのには相當惱されるN君の如きは知らずと蛇と一緒に風呂に入つたとか

7月18日(土) — 第5日 — 晴

起床6時半。8時半昨夜一緒に泊つた同じバスに乗車出發す。阿寒國立公園のほこる横斷道路を原始林の間をぬつて走る。道の兩側にすぎの大きなのがおひかぶさつて居るのが目立つ。双湖臺にてペンケト、パンケトの兩湖(ペンケはアイヌ語の上、パンケは下の意)を望み、双岳臺にて雄阿寒、雌阿寒の2岳に名ををし、破壊した道路修繕に道を遮られながらも11時10分弟子屈(テシカガ)長生閣に着。荷物をあづけ一同位置を交代して乗車摩周湖に向ふ。11時50分摩周湖着。刻一刻と變化する湖水の色に見とれ、幽玄な景色は寫眞マニアを喜ばせる。持參の握飯に舌づつみを打ち午後1時出發。屈斜路湖畔を通り美幌峠に2時着。北は網走の平原を隔て、遠くオホーツク海を望む平坦なるながめ、南は屈斜路湖を通してカムイヌプリ岳を望み、前後全く趣を異にする展望を恣にして2時50分出發。和琴半島にて夕立に一寸逢ひ、アイヌ部落、砂湯を見て川湯温泉を経て4時50分硫黄山着。其の噴煙の物すごいのに驚き硫黄製錬所を見學して5時5分出發。

5時40分弟子屈長生閣着。2日間のバスにくたくたになつた體を温泉にしたす。東京より釧路まで1700キロ、更にバスにて300キロ、全行程約2000キロ。思へば遠く來つる吾かな!

夕飯後驛まで歩いて東京までの切符を買ふ。

7月19日(日) — 第6日 — 快晴

4時半起床。今日も又快晴。なんと天候にめぐまれて居る事よ!午前6時10分弟子屈發。9時半網走着——此所にて有名な監獄を見るてあり——旭川行の汽車に乗換へ9時40分同所發。日蝕觀測く有名な女滿別を通り、野付牛(ノツケウシ)、遠輕(エンガル)を経て午後4時29分上川驛着。車中驛名の讀み

競べが退屈をまぎらわしてくれる。直ちに驛前のバスにて層雲峽に向ふ。例によつて案内嬢の口調宜しく、緑の葉の香の濃い仙峽を登り5時半層雲閣着再びバスにて小函を廻遊し7時宿に歸り夕飯。

層雲峽には2泊の豫定であつたが、夕張に立つ都合上、明日の中に旭川まで行く事にする。雷鳴あり明日は天氣であれば良いか。

7月20日(月) — 第7日 — 晴後小雨

午前5時起床。握飯朝・晝4個を用意して貰ひ、一行18名大雪山登山に向ふ。出發6時20分。先生は敬遠して午前中大函、小函を廻り先に旭川に行つて合同酒精を見學するとのお話。午前9時45分頂上茶屋着。アイスクリームに一同生きかへる。相當の強行軍だつた事は日頃自信のあるO君が完全にのびた點でも想像出來よう。海拔198米の黒岳頂上をきわめる。霧の晴れ間に北嶺岳、旭岳の雪谿がすぐま近く見える。11時50分頂上發下山。午後1時半には全員無事宿に歸着。風呂を浴びて疲れを休め午後3時10分バスにて上川に向ふ。途中猛烈な驟雨に逢ひ約50分にして上川驛着。

午後4時33分上川發の石北線にて旭川に向ふ。安足間(アンタロマ)附近で汽車遅延し約10分遅れて6時25分旭川着。先着の武富先生驛まで出迎へらる。驛前の三浦屋に落付く。旭川の街は小雨に煙つて居る。野付牛の薄荷工場見學のてあり。

7月21日(火) — 第8日 — 雨後曇

起床6時半。朝食後旭川の町を散歩す。雨止む。午前10時33分發函館行の列車に乗る。石北川は相當水が氾濫して居る。午後0時57分岩見澤着の豫定が約50分遅れて1時52分岩見澤着。爲に1時5分發の室蘭本線に乗り遅れ3時17分迄待たねばならず、更に追分にて乗り換えて夕張に着く時は既に工場見學が出来ないので、岩見澤にてハイヤー3臺をやとつて夕張までのす。4時夕張丸梅旅館着。荷物をあづけ炭鑛見學に向ふ。先着諸兄の御出迎へを受け、親切な御案内により工場、炭鑛を見學し説明を承る。7時歸宿。清水、大青、岩田、藤岡、柳目、井邊、坂寄の早稲田出身の先輩諸兄と武富先生の御友人益田氏等の盛んなる饗宴を受ける。期せずして夕張早稲田會となり、早稲田の勢力の偉大なのに、今更ながら一同氣を良くする。

7月22日(水) — 第9日 — 曇

5時10分起床。午前6時50分夕張發汽車にて午前8時30分追分着。約2時間驛で待つて午前10時33分追分發室蘭行の列車に乗換へ午前11時30分遠淺(ト

アサ) 着。驛より約2町の北海道製酪販賣組合聯合會のチーズ工場見學。赤屋根、白壁のシックな建物一日の牛乳處理量は40石との話。土産のチーズの販賣を受け、照井酪農園見學。見渡す限りの草原に所々サイローの立つて居るのが見える。

午後2時40分遠淺發、長萬部行の列車にて3時40分苫小牧着。王子製紙苫小牧工場。見學工場内用地5萬坪の廣大なる王子製紙のほこる模範的工場。フォードリニーヤ・マシンの1300呎の速度で抄紙する抄紙機は全體で10臺もあり、更に大きなのを新設中であつた。此所で新聞用紙が年33,000萬呎、トマテックスが5萬坪生産せられる。

約10分遅れより遅れて6時17分北海道鐵道にて苫小牧發。8時26分苗穂着。北大の堀教授及び相川氏の御出迎へあり。バスにて8時40分とらや旅館着。札幌の第1夜を結ぶ。

7月23日(木) 一第10日一 晴

朝6時起床。先生は道廳見學に赴く。我々一行18名は8時宿を出發、バス、電車バスと乗り換へて午前8時40分北海道製酪販賣組合聯合會(酪聯)バター工場見學。アイスクリームとバターとチーズの相違の知識を得て9時半見學を終り、バスにて更に帝國製麻に向ふ。此所にて武富先生及び北海ガスの先輩齋藤氏と合し、齋藤氏の御骨折で見學を許され午前10時20分見學開始。11時には見學終る。5番館會堂にて晝飯を食べ、12時50分齋藤先輩の北海ガス見學。齋藤氏の先輩でなければ聞かれない種々有益なるお話を承り、一同多に感謝す。

午後2時30分、北海ガスのすぐ前のサツポロビール工場見學。終つてビールの饗應を受ける。

午後6時羽治製菓集合、齋藤先輩に夕飯の御馳走にあづかる。回昔談、スキーの話等に話題がはずんで、8時半とらや旅館に歸宿。

7月24日(金) 一第11日一 雨時々曇

7時起床。9時半擬似行バスに乗り午前10時20分頃工業試験所到着。北海道工業試験所見學。非常に有益。

見學終つて12時10分。一時解散して自由行動とし4時50分迄に豊平驛前集合とす。大部分の者は雨にずぶぬれになつて2時半北大の堀研究室を訪ね、重水製造の詳しい御説明を承り、得る所大であつた。其時御馳走になつたアイスクリームのうまかつた事が忘れられない。

午後4時50分豊平驛前集合。石津、保田、小松、的場、平池の5者がぬけて一行は先生以下13名とな

る。相川氏の見送りをうけ午後5時02分豊平驛發、定山溪鐵道にて同5時50分定山溪着。鹿湯クラブにくつろぐ。

7月25日(土) 一第12日一 晴

6時起床。午前7時55分定山溪發。同8時49分東札幌驛着。北海道鐵道のガソリンカーに乗り換へ9時11分東札幌發。午前11時11分苫小牧着。室蘭本線に乗り換へ午前11時35分苫小牧發。午後1時18分輪西着。日本製鋼輪西工場見學。規模の大なるに驚く熔鑄爐、石炭低温乾燥、コールドタル分溜装置等有益な見學を終へ、午後3時57分輪西發、同4時36分登別驛着。バスにて登別温泉に向ひ5時15分着。第1龍本館に投宿。武富先生のビールの御饗應により解散の宴を催はす。各自ユーモアあつぷりの隱藝の披露あり。9時半散解。

7月26日(日) 一第13日一 曇時々晴

各自自由に洞爺湖に向ひ観光ホテル泊。十和田湖を廻り歸る者もあり、各自歸りのコースを練る。

最後に終始御指導と御援助を賜はつた武富先生に深く感謝の意を表すると共に、札幌に於ける齋藤氏堀先生及び相川氏、釧路に於ける内海氏、夕張に於ける校友諸兄等各地に於て御多忙中にもかかわらず御懇切なる御指導と觀迎とを賜つた諸先輩、校友諸賢に改めて厚く御禮の言葉を述べると共に御健康を祈つて擱筆する。(久喜)

(昭和十一年度 關西—九州班)

今年度の我々夏期工場見學旅行は昨年度と同様に東西2班に分れ一隊は北海道地方他の一隊の我々の班は關西九州地方に行く事となつた。

我々一隊10名は宇野助教引率の下に7月13日より約10日間關西九州地方の工場、名勝、古蹟等を親しく見聞し到る處に於て校友先輩諸兄の熱烈なる御歓迎、御聲援を忝ろし無事に豫定を完結し得たのである。以下その太略を記して報告に代へる。

7月13日(日) 晴

午後10時上野驛集合。集まる面々宇野先生以下伊藤、高中、大森、森、矢部、田中、筋、東、百武、矢田の諸君。一同溢れんばかりの元氣にて午後10時35分上野發新瀉行の列車に乗り込む。

當日夜遅く山内先生の御見送り、その上御土産まで頂戴した事我々一同大に感謝す。かくして列車は總勢11名の夢を乗せ帯織へと向ふ。

7月14日(火) 快晴

午前5時起床。一同爽快なる朝を車中にて迎ふ。六時7分帯織着。下車し車中にて買求めた辨當にて

朝食をすまして大面油田へ徒歩にて向ふ。7時大面油田原油所事務所到着。暫時休息、説明を聞き採油所に引率さる。歩く事3、4分にして大正6年3月日産3,000石の大噴油をせし4號井に到着。これより數ヶ所の油井及び動力配給所を見學す。この間1時間に渡り山地を登り下りせし爲一同聊か疲労す。山上にて休息す。見晴絶好にしてはるか彼方に新潟、信濃川の延々たる流れを望み四圍は青葉の香で息づまるが如く、一同時の過るもの知らず、暫くして事務所を下り11時半此處を辭して帯織驛に向ふ。

午後0時31分帯織發、宇奈月に向ふ。車窓右にはアルプスの連峯を望み左には日本海の荒磯を見下すその景色たるや大いに我々の印象に残る。6時13分三日市着、電車に乗り換へ五十分程黒部川を廻り宇奈月に着き直ちに宇奈月旅館に投ず、黒部川のせうらぎを耳にしつゝ温泉につかりて第1日の疲労を流し、今後の行程無事進行する様祝福する聊かの宴を張る。

7月15日(水) 快晴

7時宇奈月發滑川に向ふ。8時53分滑川着、蜃氣樓にて有名なる所なり、約5分徒歩にて中越電氣工業株式會社到着、約1時間に渡る工場長の御説明を拜聽し工場見學す。3,000疋の電孤爐6臺が火花を散らして活動せる間を我々一同玉の汗を流し乍ら1時間に渡り熱心に見學す。此の工場では日産12,000疋のカーバイト、自家用炭素電極、耐酸鐵が製造さる。その他細部に到るまでの詳しい御説明を拜聽し11時辭去し高岡に向ふ。

午後0時20分高岡着、驛前にて晝食を取りバスにて新湊の日本網管株式會社電氣製鐵所に向ふ。東京出發以來始めての賑かな町にて一同の思ひは久し振りに東京へ飛ぶ、伏木港を一錢蒸汽にて渡る。伏木港は今や日本海唯一の良港として年140萬トンを吞吐する状態にあり、新興滿洲國との航路開き更に高山線の全通に依り日に躍進の歩を進めつゝあり。内外船舶常に輻輳し新興の港は力強き活況を呈し居れり。日本網管約4分に渡り見學す。此の工場は非常に整然とし主なる仕事は(1)電氣精鋼(鋼・鑄物鋼塊)(2)合金鐵(滿侖鐵・無瓦斯滿侖鐵・金屬滿侖・クロム鋼・チタン鐵・其の他數種)である午後三時退出し北海ソードの先輩諸兄を訪問す。清水氏、井上氏、電氣科出身の石毛氏の諸兄非常に嬉ばれ御薦めに甘へ御親切なる御款待を忝うし、美妓等のサービスに一同100%に旅愁を慰めらる。午後11時30分先輩諸兄達と別れを惜みつゝ一同元氣に高岡を出發し夜行にて京都に向ふ。今日一日中の大活

躍に一同直ちに窮窟な椅子に沈溺す。

7月16日(木) 晴、酷暑

午前9時45分京都着、直ちに三條小橋大津屋旅館に旅装を解き高山礦山へ向ふ。御懇切なる御説明を拜聽し約1時間に渡り工場を見學す。今日は無風猛烈なる酷暑に襲はれ一同辟易す。午後は一同嵐山に向ひ舟遊び、水泳等に興ず。今夜は祇園祭にて各人三々五々散歩に出掛け京都の夜影を満喫す。東京出發以來始めての自由行動なり。

7月17日(金) 酷暑

午前8時30分京都驛發、快速列車にて大阪に向ふ。9時5分大阪驛着、直ちに圓タクにて大阪工業試験所に向ふ。9時半より11時迄各研究室、試験室を見學す。今日も亦無風にして蒸せ返へる様な暑さに連日疲労やうやく一同に現はる。道頓堀稻田家旅館に旅装を解き戎橋の袖にて晝食を取り市内の散歩に出掛る。この日の猛烈なる暑さにほがらかな傑作續出。夕食後漸くネオンの映ゆる頃夜影を求めて散策。

7月18日(土) 快晴

午前8時天王寺發、阪私電鐵にて和歌山に向ふ。8時45分和歌山着直ちに日良染料訪問、先輩由良氏御兄弟、川田氏の御丁寧なる御説明により工場内限なく見學す。各機械及び設備等總べて由良氏の御考案との事一同人に感嘆す。これより直ぐ隣の南海晒粉見學。由良先輩お多忙中の由良氏川田氏の御案内にて和歌山市内見學。先づお城の天守閣に上り一望和歌山の市街遠くは淡路島を眺める。人口10數萬の城下町、お殿様徳川公は滅多にお歸りにならぬ由。

3時半頃又一同自動車を連れ、西國第2番紀三井寺に詣つ、眺め絶好。4時新和歌浦、萬波樓着、斷崖上の旅館にして眞下に紺碧の南海を見下す。その絶景筆舌に盡し難し。河童連一同嬉々として海と戯る。夜、萬波樓に於て由良先輩御兄弟の絶大なる御款待を受く。紺碧の波に漂ふ月、白砂にくだくる金波銀波、星は流れ魚火海の彼處に輝く。由良氏御兄弟川田氏と共に先輩後輩襟を開き盡談盡くるを知らず美妓のサービスは一同思はず杯を重ねほがらかな匿藝續出に一同大嬉び、けだし一家華版なりき。

當夜は皆元氣に由良氏の御款待に深い感謝を奉げつゝ、寢に就く。

(4) 會員消息

『大連早大應用化學會便り』

昭和11年8月15日、於大連不二亭。

私達大連存住の應用化學科出身者一同は此度滿洲鹽業會社設立と同時に理事長となられて渡滿された恩師三角愛三先生をお招きして一夕盛んな歓迎の宴を催しました。滿洲で接する先生の御様子には私達が學校で接した時以上に日焼けして如何にも元氣旺盛一同其の異常なエネルギーにすつかり驚嘆致しました。會は最初から學校の憶ひ出話、在校諸先生の噂話とそれからそれへ証の花が咲き和氣飄々裡の一晩でした。先生渡滿の抱負はと問へば毎年日本が輸入する莫大な外國鹽をK・Oする事ださうです。即ち昭和10年度日本に於ける鹽の需要量は約180萬噸此の中36%は内地鹽ですが、64%輸入又は移入によつてみます。此等の外國鹽は關東州を筆頭に其の他15,6の國々から持込まれます。三角先生の滿洲鹽業は滿洲國に於ける餘剩鹽の政府拂下げのものと自己既發の鹽田生産とを合して25萬噸又は2萬噸の良質鹽を内地へ持つて行き、うまく行けば10年後に於て100萬噸から130萬噸の鹽を供給して完全に外國鹽を驅逐しようとする云ふ聞いてゐても胸のスーツする様な計畫で、老いて尙益々盛んな先生の勵志には我々青年が既にK・Oされてしまひました。私達滿洲鹽業會員は今後も三角先生を中心にしつかりと手をつないでやつて行きたいと思つて居ります。建設途上の滿洲で我々技術家は最も張切つてゐるものゝ一人です。

尙當日はハルビン税關から大連税關へ榮轉して來られた小倉俊夫兄を始め、大房子の大日本鹽業の萩布佐一兄、それに夏中休暇歸省中の西片、大久保の兩君も參加して非常に賑やかでした。其の他はお馴染みの満べ、石川安廣大先輩に、劍道四段で愉快的知中申氏(氏は此度満べ、ハルビン工場の工場長になりました。)次は今は無きバラック應化の名物男、満石の阿部二郎氏(因に氏は滿洲工業化學會では萬丈の氣をはいてゐます。お後は何時も丈の低いのが氣になるらしい愉快的満鐵の上野至兄に、高粱の權威憤原敏之兄、それにノツケラケンとして取止めのない高木智雄技術員に同じく廣瀨鮮一技術員集つた面々は相當なものでした。

當記事に對しては寄書の御送附あり掲載の豫定なりしを移轉の際何れへか紛失し原稿締切り迄に遂に發見し得ず誠に申譯なき次第にて編輯の責任に於て深く陳謝す。

(5) 九應會員消息

近藤氏が再び平塚へ戻つた事他格別變つた事も

ありません。

(6) 群青會(第5回)

去る4月6日の夜東京の中心ならざる上野の京成聚樂で暫くぶりで在京濱の會員の集合を催した。集まるもの井上、林(和)、林、河内、小倉、鳥井、佐野(英)、増田、佐野、坂田の10氏共に久振りの會合であつた。おたがひに氣分は若い承知せぬ2,3の現象が何處となく出てきかゝつてゐる。當日は伊藤工藤、福原、藤本の諸兄は事故のため馳せ參じなかつたのは物淋しかつた。三島の渡邊氏、丁度工業化學の總會で出京中なりしも、幹事の不行屈のため通知洩れとせるは誠に残念であつた。定刻6時欝むほども酔もまわり各人の氣血益々上昇、足と頭の不一致を來し床の間に尻もちつき床板を落下せしむる珍景を添へるものもあり、走らぬベンで會員諸兄に寄書を送つた。不参加諸氏はその寄書に依り當時の情況御推察を乞ふ。とにかく吾人はプライドをもつて職務にあたり學校は己の教育せる子弟を可愛つて諸先生のトレーニングプライドをもつて送り出して欲しいと言ふ事に決し會員の健康を祈つて10時散會せり。

小倉河内の兩氏は仲々のツリの愛好者で今夏も外房方面に家族の者のために家を借り、御自身は土曜より日曜にかけて御出張の豫定とか、ツつた魚の手料理で一杯其味も亦格別だと、希望者は申出れば御案内さるゝ由、處で氏についての珍ニュースを一寸御紹介しておかん或はこのために内紛あつては筆者馳せ參じて御詫言上いたします。近眼の小倉君濱邊の夕涼みに散策の折柄外房の濱では一寸見られぬ淑女を認め心中不穩を感じ多少の氣持ちを表現、いくばくかの時間を費し、近づいて拜顔の榮に接せし處豈計らんや河内君の御夫人なりしとは、珍ニュースの序に會員諸氏の精力調査も一興とぞ思ひ多きものの調査表の一部を拜借して其まゝ引寫して見るに

佐野英 男6歳。林和雄 男4歳女1歳。河内 女9歳。増田 男11歳9歳3歳。林皓明 女3歳6月に生れる。小倉 男10歳女6歳。井上 男9歳。鳥井 女5歳。渡邊薫 女6歳男3歳。佐野龍二郎 女房20歳欲しい。坂田 女7歳6歳男4歳。

(7) ルツボ會(第9回)

小生今夏3年生の見學旅行に附いて九州迄出掛けたが鈴木、高橋、牧3君には一方ならぬ御世話になり又御歡待に預かつた。茲に厚く御禮申上げます。3君共至つて元氣で御活躍の様子、大いに意を強う

した下關では御匠君に會へる心算で行つたが2週間前 朝鮮に轉任された後で残念だつた。然し北朝鮮へ進出の同君の意氣と健康を聞いて嬉しかつた。健闘を祈る。

藤好君は夏前からずつと満洲に出張されてゐるが大連からの便りによると阿部君と2-3回會つたが、同君の元氣當るべからざるものありと、尙今秋は愈々華屬の典を擧げられるとか、メデタシ、メデタシ。

東京ではクラス會を暫らくやらないが小生等の怠慢か、或は在京者の意氣消沈か、兎に角本年中には1度開きたいものと思ふ。(宇野記)

(8) 九四會々員抄

秋になると無性に人が戀しくなる。

それがオデン屋の娘であつたり、タイピストであつたり、行きずりの女の子であつたり、そして又2年前に別れたクラスメートであつたりする。

こゝに愚かなる幹事あつて、人懐かしきまゝに、20枚の往復葉書を奮發したが、

1. 中野君。卒業後も相變らず平凡な生活を續けて居る。會社でも家でも。會社の分析所は去年の4月から人数が増して、現在總員27人(本社は百數十名も居る)だが20歳以下の若いものが大部分なので氣持は至極のんびりとして居て生活し良い。仕事に熱心なのはあたりまへだが、野球やらピンポン、水泳等のスポーツ方面にも熱心で若い者達と一緒に盛んにやつて居る。何時までかは判らぬが、まだ當分は家の方では學生時代の延長の様な書物とスポーツの夫が續くであらう。今年はオリムピックがあつたので實に興味ある時を過し得たが、4年後の東京に於けるオリムピック大會の事は今日待遠しく思つて居る次第です。

2. 松田君。小生も相變らずですが、當方の相變らずはあまり結構ではない。あちらの國では五ツ兒成金があるとか、小生も止むを得ないから六ツ兒成金にでも成らうと工夫して居るが、どうも思ふ儘にならないらしい。然し其の性の調節に就いては只論だけ判つた。ホルモン會社にでも勤めて確り研究したい。

3. 島田君。小生相變らず、滑りも轉びもせず、従つて起きもせず至極のんびりと暮して居ます。御嫁さんは欲しくも話もなく、従つて生れる子供の名前を考へた事もない。先の會報の幹事御催促で元ちゃん處には無沙汰の詫言をしておいた元ちゃんがお猿の様な赤ん坊をかへてお歳の割に御小さお

子さんと人に云われやせぬかと人事ならず考へて居るこわき恩人なればこそ、何時までも早稲田の森と書かずに欲しい。

4. 川口君。目下泰さんの益々肥えるのを呆れつゝ共に色に苦勞して居る。色と申しても色々ある。甚だ色氣のない色である。か飯の種の色故致し方がない。女の子が欲しいんだけど黒や青で染つた奴だと思つて自ら近づかないので、目下聖人に近い生活している。聖人と云ふよりは由良の別荘の山から通勤して居る故仙人である。この仙人は女のはぎを見ても墮ちないがツイ青灯赤灯が戀しくなる。近く大阪へ心臓の強い荒川とか申すのめづ奴が来る由大阪が恐慌を來すと思ふ。水科も父となり、由良も亦近々だ。小生獨り往年の童貞居士、獨り健在なり。お嫁さまは欲しくないが女の子が欲しい。之又本音かも知れん。

5. 茂呂君。唯一人の九州男にも元氣で北九州の煙の下で働いて居る。東京を去つて2年半、僕も變つたです。只今では男の子が一人出來て會社から歸つても餘暇が少いです。級友の中にもお父さんになつたのがまだまだあるそうですか。

6. 幹事。學生時代と變らず、獨居を嬉こんで居る。「レビュー」「シネマ」を觀、「ハイキング」「スケート」をやり、その餘暇に肩の凝らぬ程度に勉強もして居る。先日「青春の海」を觀てから「ヨツト」にこつて時折り佐藤僧正と品川沖にのり出すが、未だかつて彼が空からおちて來たことはない。

2, 3日前東日の「うそくらぶ」に……往復葉書の返信の書に宛各名書くことに禁止すれば、もらつた人は、自分の好き勝手な處に使へるし、又煙草錢に困つた時には郵便局に持參すれば1封5厘に引きとつてくれるから便利であると大臣に申告したら、頭が良い奴と賞められた。近々そうなるだらう。……と投書したら、あんまり眞實のことを云ひすぎると云ふので没になつちやつたとき。

7. 水科君。6年4月就職サラリーマン、→10年5月結婚ハズ→11年5月男子生ハイ、凡そスピードエーチに應わしいでせう。氣持は學生の時そのまま特別ぢやぢらしくもありません。「セルロイド」會社に居るが「セルロイド」に未だ一度もひねくりませんからこの方面のことは聞かれても知りません。やつて居ることは社の機密に關することだそうですから黙つて居ることにしませう。(勿體振つて居ますね)會社は今度新井(新潟縣)に合成醋酸の會社をつくりましたが、手を擴げるばかりで一向我々の懷は

温かくなりません。

「セルロイド」生地は統制された會社が勝手にやれなくなりにくくなつたらしいです。詳細は知りません。

8. 横山君。勤前、株式會社白洋舎化學研究所現在の研究項目 ストツダートソルベントの吸着式回収試験。赤ん坊、結婚して6年未だに Absolute yero. 禁酒運動、學生排酒聯盟、白洋舎禁酒會共に盛大。

9. 畑山君。今度日本ビスコースを合併したので王子工場の研究室を一人で切盛りして居る。原料の分析から製造工種を監督し毎新製品の研究を怠らない。會社が黒字を出したのも俺が柔荑劑を完成したからさ。

土井内君。久しく御無沙汰して居ます。同じ東京に居乍ら學校へも六日會にも顔を出さず失禮して居ます。之と云ふのも原因は何處にあるか？ 勉強の爲？ 否可愛いフラウの爲？ 否曰く、顔面がエチオピアになつて皆様に會わせる顔がない爲（すから何卒悪しからず御同情をたれ給へ。

布君。特別に用がなければ例へば死んだとか生きたとか云ふのでなければ仲々毎日して居る何がなぞ書けやしない。まあ早い秋を感じて冬の寒さを思ひやる位が關の山、會社の仕事等そんなに大したことをしなくとも養つてくれる様な氣がして居るのが互の身の上と云ふものではありませんでせうか。通信を書くべきに樂書のみしましたが、まあ何とか思つた様に書いたり話したり願ひます。

(9) 一一會初だより

全國の皆様愈々一一會の登場でございますと云ふと一寸大きいのですが、一一會とは知る人ぞ知るで今年初めてこの欄に顔を出す資格を得た第十六回卒業生一同の會です。従つて三十名そこそこの者に興味を持つて或は持たずに讀んで載ければ結構なのです。吾等の應化も新學期と共に新校舎に引越しましたが些か手に餘つたのか呆然たるものがあります落付くと共に本格的に張り切る事になるでしょう。

在京の連中も忙がしいと稱する者許りですが本間君、船橋君等會社はせはしいし、アルバムはやらねばならないし、他にもちよいちよい顔を出さなきやいやーよと云ふ所があるらしく、この所東奔西走の有様、全く同情に値します。之に反して中島を圓滿足蹴にした芦野君は閑居はして居るか不善はして居ないとの事。張り切り内海も近頃は勉強の方に張り

切つて「こやしだつて毎日見て居る中にだんだん可愛くなる」だつて、今に肥料界を押へるだらうと専らの評判です。我君も所用の爲か屢々上京されるし谷岡君も二三回來た事を風の便りに聞いたのですが帝都に於ける行動は杳として不明です。源さんよ秘密はデマの元ですぞ。藤崎君は今度大阪に榮轉（御世辭ではない相です）可愛い赤ちやんもさぞ御喜びの事でしょう。町欣が先日上京、相變らず「何うも近頃體の調子が悪い」と嘯いて居ます。然し體の調子の悪くなるのも當り前、彼は（彼とは町田欣二郎君の事ですぞ）達人芦野でさへバツサリ切られる事程左様に相當なものです。修業とはげに恐ろしいのですな。吾等のスター桑原軒幸二郎師よ、咽喉の調子は如何ですか。偶には御便りも出して下さい。餘り四次元の世界許り彷徨して居ると窓硝子の賣行



きにも掛はりますよ。廣瀬、高木の滿鐵組は仲良くアベックで大陸旅行を極め込んだ由、モダン彌次喜多振りは見える様です。二人は若一いと許りに餘り無理をなさぬ様、體力を、過信し過ぎざる様一寸ばかり御注意して置ませう。田中君が御病氣でしたが全快も近い様子、せいぜい御静養されてこそ君の今後は期待されると云ふものです。好漢磯野も近く朝鮮へ向はれる由、内地の酒も屢しは御別れなので盛んに飲み貯めてる様子です。御結婚の噂を一寸耳にしましたが正式の發表も近い事でしょう。尙目出度く甲種の難關を突破された方々は平山、芦野、本間、谷岡、桑原、町田と知つて居る範圍では6人居ます。斯かる堂々たる筋肉の持主許りを國防日本の第一線に送り得た事は唯に吾等一一會の誇りである許りでなく早大應化の榮譽でもある譯です。充分の御奉公あつて然る可きものと思ひます。

最後に諸種の會合、己の結婚、出産は勿論、他人の御目出度等見又は聞きした物を時々御傳へ下さい。さすれば之等は再び物理的變化ばかりでなく化學的變化を受けてこの欄を賑はは徒々なる時の微笑

ましい話題となつて楽しむ事が出るでしょう。

(武井)

(10) 二年より

皆さんおめでたう御座居ます。

長い夏休みも終り久し振りに来る早稲田に少しでも變つた事がありはしないかと眼をキョロキョロさせて登校する學生諸君のその慾望を満してくれるものは、何と云つても我等の新校舎に違ひない。この前を通る番は誰でも一度は仰ぎ見る偉大な存在である。このオールワセダの注目的に朝登校の時等、堂々と衆人の視線を浴びて入つて行く時は稍テレる程であるが、又それだけ優越感が心の中に湧いて来る。

昭和7年、我々が學院へ入りたての事である。學院の1年の始業式後の1週間は、何人も御經驗の如く、教科書も未だ來ないし従つて休講ばかりだし、さりとて友人は新しい顔ばかりだし、全く手もちぶさたの間の悪い事この上なしである。こんな頃のある休講の時間、仕方なく大學構内をぶらついて見た、有名な演劇博物館の前に來た時ふと傍の建物内に、白衣を着た人達が働いて居るのを見た。おやおやと思つてよく見ると、何とこれが應用化學科の本部であるらしい。はゝあ、さては此處に居るのは先輩だと思つて見て居たが、この発見はこの懐しい様な氣持と共に、少からぬ失望を伴つた。と云ふのは餘りにも建物が見すばらしいのである。所謂、洋間付貸家と出ふ奴の安い西洋館に似たもので、自分も3年後にはこの中で實驗をするのだと思ふと折角、早大應化とは何んな立派な所だと思つて入つて來たのに、その大きな期待が裏切られた様に感じた。今こんなことを云ふと建物で學問の良否が決まるものかと小林先生に叱られるだらうが、當時は本當にさう思つた。學部へ入つてからは、もう覺悟して居たから、この構内に便所のない事を発見しても、更に驚きも嘆きもしなかつた。併し入つてから1ヶ月ばかり立つて喜ぶ可きニュースを耳にした。即ち新校舎建築の計畫で、來年から入れるだらうとの事であつた。さてそれからと云ふものは寢ては夢、起きては現、程でなくても、事ある毎に話題に上るのは新校舎の事である。設計の方で諸先生方は随分頭を屢まされたらしいが(お蔭で我々は圖書室を占領されて困つたが)我々は唯もう新しい校舎、地階共五階建の想像で忙しかつた。それだからこそ工事にかゝつてから、其々現場に足を踏み入れ、歩き廻り、屋上

から庭球、野球が無料で見られたり、議事堂が望見出來たり、早稲田で大隈講堂の塔の次に高い事を發見したり、あれこれと大に技師さん達を悩ましたのである。

妙なめぐり合せで我には丁度1年半宛、兩方の校舎で學んだ事になる。これは中々都合がいい。即ち先輩とも後輩とも話が出来からである。例へば6日會で先輩諸君に會つて訊ねられたら「實際今度のはいいですよ。通風はいいし、室は廣いし、昔の様に40°を越すなんて事はまあないでせうし……」等と羨ましがらせる事も出来る。さうかと思ふと自分達が卒業してから後輩共を掴まへて、「君達は舊校舎を知らないだらうが實際は苦勞したもんだよ。何しろ200人以上、上ると2階が落ちると云はれた程だし、狭いし實に狭かつたね。而も下に居ると時に2階の下水がつまつて天井から大雨が降たりしてね。……」等とまるで他人のやつた事の様に喋つて威張れるし、中々便利である。

今更に昔の夢が實現して、入つて見ると又住心地は格別である。授業中にふと天井のテックスを見てあゝ新校舎でやつて居るのだと云ふ満足感を感じたり、他の科の者が立派になつたなあと云ふ毎に思はず頬がゆるむ。これも全く小林先生始め諸先生方の努力の賜である。さうして、今迄、種々不自由された先輩諸兄に對し我々は功なくして優遇されて居る様で、全くお氣の毒に思はれる。又兎に角、他の科をさしおいて應用化學科が先づ立派になつた事は考へ様によつては近來の化學工業の隆盛を物語る一つの現はれであるとも見られる。建物は立派に出來上つた。今度は内容も更に立派にしたいものである。今迄の如き不利不便をしのんでもあれ程の名レポートが數々出て居る。これを考へると今後この校舎で化學工業界をリードす可き何んなに立派な業績があげられ得るか大に期待して居てよいと思ふ。

(11. 9. 25 裸牛生)

(11) 昭和十一年の一年生のこと

9月9日朝、クラス委員より次の様なはがきがきた。

前略、新館へ引越しの爲9月10日、午前10時、舊實驗室へ集り下さい。 川久保生

永い夏休みの終りともなれば級友の顔でも見たくなるのが人情だ。其處の所を旨くねらつたのが此の一葉なのである。10日朝ともなれば新築教室の威容を拜まんと一同續々詰めかけた。何んだ。今日は未だ

夏休みなんじやないか、とは言ひながらも銘々の器具を運んだ、天井が高いのが好いな、然し廊下が暗いね、アスファルトを敷いてあるのは歩き心地が好いね、教室もコンクリート床は硬過ぎるね、1階が1年の實驗室、2階は2年、3階が3年か、4階が教室かと談笑しつつ階段88段程も昇れば見晴しの良い屋上に出る。先づ右に眼に入るのは、あの野球場だ、ラヂオ屋の店先からの中継放送を耳にグラウンド試合を見るのは、サポリストには絶好の天地だ、と私は考へて。左にテニスコート、武道館、お向ひには第二學院に電気科のアンテナ、ぐつと轉じて、これも新裝なれる國會議事堂は恩賜館越しに頭を現してゐる。眼の下に、狭いとは思つてゐたが、大きい饅頭なマモコのスレート屋校があつた。これが其の舊實驗室だ。想へば懐しみの深くもある。然し人の噂も何んとか舊教室も取拂はれた今日、何んとか昔しを忘れかけて來た様で情無い。

時節がらクラス會を、クラス會の低氣壓が巻き起つたのが15日か、話は早くまとまつて一期日、18日午後6時、會場、日本劇場前「曙」、——と發表が出た。宇野先生、石川先生の御出席によつてそれは全く、本當に有意義だつた……。午後6時半とお傳へしてをかなかつたが、抑々の誤りで正6時迄には35名中8名の大人入りだつた相だ。遅刻者は時間の自乗に比例する罰金だ。そらお前は77、49錢だぞのお小言には痛入つただけで實に愉快だつたなあと話し合つたのは勿論、翌朝の事でした。

(11月30日 橋爪推公)

學部に進んで免々各方面に有意義なる最初の愉快な夏休みも無事終り愈々待望の天高く馬肥ゆるの専ら食氣盛んの候と相成つた。

今年の暑氣はまだまだ夏休みは長くともよいぞ！と云はん許り全く殺'的の暑さで廣く世には可愛相にも遂ひに頭に來た人が出たとか。休暇前より應化實驗室は堂々たるあの圖體に御化粧に節念がなかつたが一夏過ぎ2學期が終ると8分通り出來上り實に立派に美しくなり我等の心は朗かだ、あゝ今度は寄生虫若しくは宿かりみたいに人の教室で授業しないで自家用のものが出來たわいと誠に嬉しい。

其の設備、建築様式實に見事なもので學園隨一のものと思ひし誇るものである。玄關へ入る時は「重役階會社に着くの圖」或ひは宴會場にある「〇〇氏御席」とぐるレストランに入る心地して朝から我等心

を張切らせる。だから應化には傑物が居るんだな。

9月10日の新館移轉の折は非常に嬉しかつた。全く實驗室が綺麗なので勿體なや。一生懸命にやらぬといかんと決心した。近頃やたらに色々の事に決心するので決心疲れが來て勢力なくなつた。化學の力で何とか「エネルギーシユマン合成」の方法はないものかな。

1年進む毎に1階づゝ出世する仕組だ。有難い。出世切つて3年になつたら上から1年2年の各者を見下ろし乍らいい心地で實驗しよう。之も今から抱いてゐる俺の決心だ。ア—又一つ増えた。

屋上からは極めて眺望がよい。彼方遙か見渡され之又心地よし。

舊實驗室が取壊れるのを見てると一抹の寂しさを覺ゆ。然し一棹グロウインとやるとバラバラ壊れるのを見てると心地よし。

あ—餘り心地よき事許りで一體どうなるのだ？

何心配しなくてよい。お次は試験だ。あ—分析の試験か。(宇野先生ハークシヨイ)

(工經應化一年T・工生)

(12) 一年雜聞記

角帽を戴いて既に半歳、青葉薫る夏も夢の間に過ぎて愈々待望の新校舎落成と共に興へられた1階の實驗室にとちこもつて學問らしきものをやつて居る未完成時代の諸々の噂に反して堂々たる設備ではあるが可成りの不満の聲も起つて居る。人間てものは何と都合よく出來てゐるものだらう。然しまあ學部に入る早々斯かる校舎を貰つた我々は幸福と云へるさればこそ級友40がつちりと腕を組んで宇野、石川兩先生の指導の下にどうやら實驗も板について來た一流の理論を吐いてゐる秀才らしき者も居る。失敗続きでレポートに追はれる愚生の如きものも居る。ピーカーを割つて小切手帳ならぬ器具借用簿を持つてかけずり廻つる連中も居る。講義に遅れて慌てゝ4階まではあはあ云つて馳け上つてエネルギーシユな連中も居る。等々。然し何と云つても實驗室の傍に教室が欲しい。ちよつと計算をするのでも4階迄上つて行くのでは如何に張切つた僕等にも相當こたえる。

思へば新校舎完成まで毎日建築工事の騒々しき未完成交響樂も張切る我々の物には潑刺たる行進曲に聞えてゐるものが、今舊校舎を破壊する音が葬送行進曲にも聞えず徒らに講義を妨害する雜音にしか聞えぬ。人間てものは何と都合よく出來てゐるものだらう。

(一年・入江記)